

あいち病害虫情報 最新情報

平成30年 8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

期間のはじめは、天気のごずつく時期がある見込み

名古屋地方气象台8月16日発表の1か月予報によれば、向こう1か月は、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、期間のはじめは 天気のごずつく時期がある見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

イネ紋枯病

7月下旬に行った巡回調査におけるイネ紋枯病の発生量は、平年並でした。しかし、向こう1か月の気温は高く、本病の発生に好適な気象条件が見込まれており、急激に上位葉に伸展する可能性があります。これから出穂期を迎える普通期栽培品種では、ほ場内を観察し、発生状況に応じて速やかに防除しましょう。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、水田内では少なく、畦畔雑草ではやや多い状況です。また、予察灯における誘殺数はおおむね平年並の状況です。

普通期栽培品種は、これから出穂を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除しましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、少ない状況です。

トビイロウンカは、県内6か所に設置した予察灯には誘殺されていません。ただし、水田内での発生を、すでに7月下旬に確認しています。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがあるので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して防除しましょう。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ

ダイズほ場内でのオオタバコガの発生量は、おおむね平年並ですが、一部、発生の多いほ場があります。また、安城市及び西尾市に設置したフェロモントラップにおける誘殺数が7月下旬以降急増し、平年より多い状況です。本種は葉以外に莢も好んで食害します。ほ場内を観察し、幼虫の発生を確認したら速やかに防除をしましょう。詳細は本日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参照してください。

ダイズのハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並に推移していますが、8月上旬に行った巡回調査において、尾張の一部地域で発生量がやや多いほ場がありました。今後、白変葉を確認したら早めに防除しましょう。

果樹の病害虫

豊橋市、新城市に設置した果樹カメムシ類の予察灯における誘殺数が、7月後半から増えてきており、ツヤアオカメムシは、平年より多く誘殺されています。7月中下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数から、8月中にはヒノキ林から離脱し、成虫の果樹園への飛来が始まると予測します。今年は果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量がやや多く、新世代成虫の発生量もやや多いため、今後のほ場への飛来に十分注意してください。県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期等は、8月1日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数が南知多町、蒲郡市ともに多い状況です。最新の気象データから予測した成虫発生ピークは下表のとおりです。成虫発生ピークが防除適期なので、下表を参考に防除を実施しましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第5世代	8/11	8/8	8/6	8/12	8/6	8/10	8/8	8/8	8/8	8/14	8/13*
第6世代	8/28	8/26	8/24	8/30	8/23	8/28	8/26	8/25	8/25	9/1	9/5*

稲武における※及び*はそれぞれ第4世代、第5世代のピーク日。

モモせん孔細菌病の枝病斑は見つけ次第除去し、ほ場外に持ち出し埋没するなどして適切に処分しましょう。次作への伝染源量を減らすため、秋季防除を実施しましょう。詳細は、本日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参照してください。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

豊橋市及び田原市のキャベツほ場に設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が、7月以降多い状況が続いています。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。

キクやキャベツほ場に設置したオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、ほ場や育苗ほでの発生に注意し、適宜防除しましょう。

野菜ほ場に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市で多い状況です。例年、8月から9月にかけて発生量が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多い地域があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820